

高校再編県民フォーラム

～とちぎの未来を切り拓く人材の育成を目指して～

主催：栃木県教育委員会

<趣旨>

高校教育を取り巻く現状と課題及び「県立高校の在り方検討会議」からの提言について県民の皆さんに御説明するとともに、これからの望ましい県立高校の在り方について、広く県民の皆さんから御意見・御提案を伺うため、フォーラムを開催いたします。

<日時・会場（定員）>

日時（令和4年）		場所	収容定員
6月18日 （土曜日）	10時00分～ 11時30分	日光市中央公民館 中ホール・小ホール （日光市平ヶ崎 160）	85名
	15時00分～ 16時30分	那須野が原ハーモニーホール 小ホール （大田原市本町 1-2703-6）	399名
6月19日 （日曜日）	10時00分～ 11時30分	足利市民プラザ 小ホール （足利市朝倉町 264）	450名
6月25日 （土曜日）	10時00分～ 11時30分	烏山公民館 研修室 （那須烏山市中央 2丁目 13-8）	144名
	15時00分～ 16時30分	市民いちごホール（真岡市民会館）小ホール （真岡市荒町 1201）	300名
7月2日 （土曜日）	14時00分～ 15時30分	栃木県総合教育センター 大講義室 （宇都宮市瓦屋町 1070） 【Zoomによるオンライン配信も実施】	400名
7月3日 （日曜日）	14時00分～ 15時30分	栃木文化会館 小ホール （栃木市旭町 12-16）	401名

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によって、予定が変更となる場合は、HP等でお知らせいたします。

<内容>

- (1) 高校教育を取り巻く現状と課題の説明
- (2) 県立高校の在り方検討会議提言の説明
- (3) 来場者からの意見発表、提案



<参加対象者>

栃木県民の方であれば、どなたでも参加できます。各会場で参加する場合は申込み不要です。7月2日のフォーラムのオンライン配信を希望する場合は、下記のウェブページでお申し込み方法を御確認ください。（申込み期限：6月26日（日））接続できる端末の上限は300台です。配信は申込み順とさせていただきます。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/kouhou/saihen/r4saihenforum.html>



<御意見の募集>

フォーラム会場以外でも、下記の方法で、御意見を募集いたします。

募集期間：令和4(2022)年6月18日から8月31日まで

募集方法：封書、ファクシミリ、電子メール

意見用紙：上記のウェブページからダウンロードして御利用ください。

送付先：下記<問合せ先>を御参照ください。

<問合せ先>

栃木県教育委員会事務局 総務課 高校再編推進担当

〒320-8501 宇都宮市埜田1-1-20

TEL 028-623-3364 FAX 028-623-3356

電子メールアドレス forum-hs@pref.tochigi.lg.jp

〔資料1〕 県立高校再編計画の概要

◇第一期再編計画 (H17~H26)

(1) 全日制高校の再編

宇都宮東	H19 中高一貫教育校 H22 共学化
宇都宮工業	H23 科学技術高校
鹿沼南	H21 統合(粟野・鹿沼農業)、総合選択制高校
日光明峰	H17 統合(足尾・日光)
小山	H18 共学化
小山北桜	H21 総合産業高校
小山城南	H18 共学化、総合学科高校
栃木翔南	H18 統合(藤岡・栃木南)
佐野	H20 中高一貫教育校 H23 共学化
佐野東	H23 共学化(佐野女子)
佐野松桜	H23 統合(田沼・佐野松陽)
足利清風	H19 統合(足利西・足利商業)、共学化、 総合選択制高校
益子芳星	H17 統合(芳賀・益子)
烏山	H20 統合(烏山・烏山女子)、共学化
黒磯南	H25 総合学科高校
矢板	H23 統合(塩谷・矢板)
矢板東	H24 中高一貫教育校
高根沢	H18 総合選択制高校(高根沢商業)
さくら清修	H18 統合(喜連川・氏家)

(2) 定時制・通信制高校の再編

学悠館	H17 フレックス・ハイスクール新設 宇都宮(通)の定員を一部移設 H18 定時制4校を統合 (小山・栃木・佐野・足利)
-----	---

◇第二期再編計画 (H30~R4)

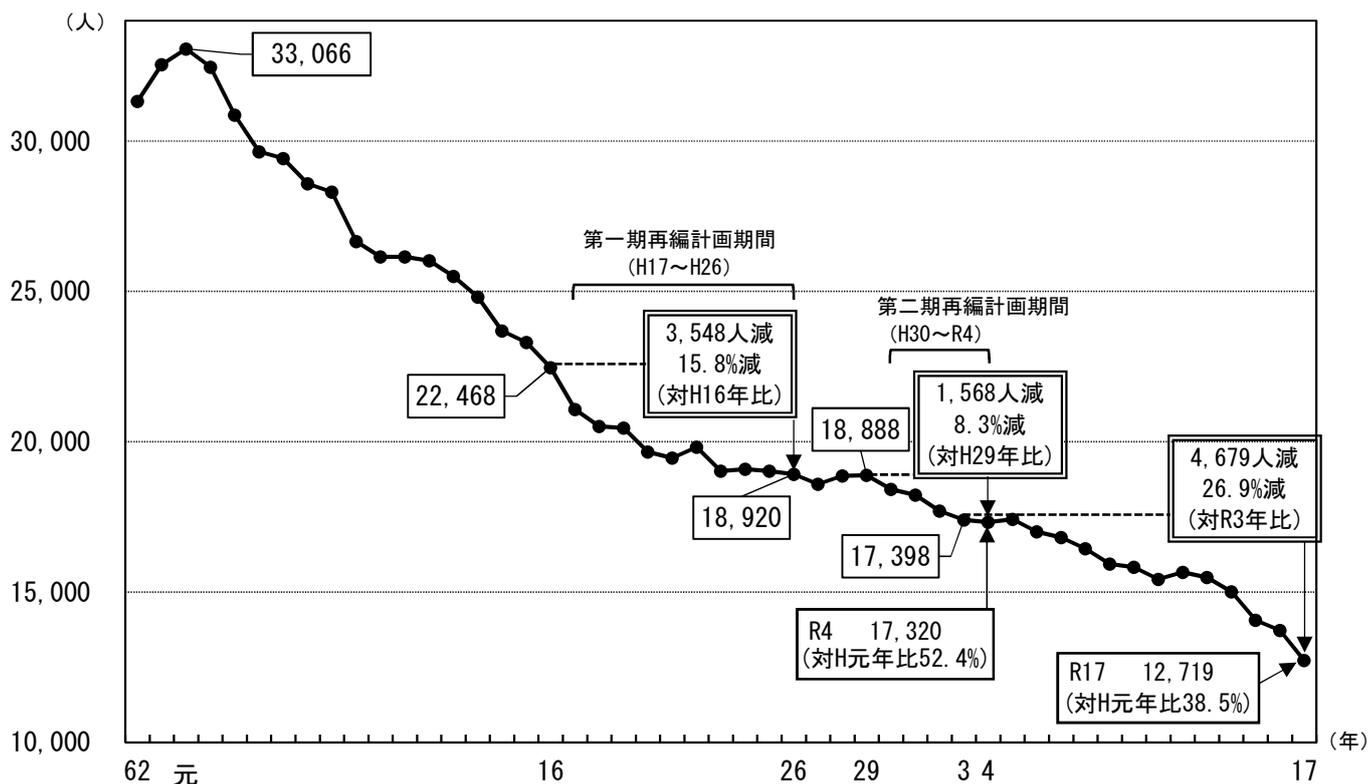
(1) 全日制高校の再編

宇都宮中央	R4 共学化(宇都宮中央女子)、単位制
日光明峰	H30 特例校、コミュニティ・スクール
小山北桜	R2 学科改編
小山城南	R3 福祉系列の充実
栃木農業	H31 学科改編
栃木工業	H31 学科改編
佐野松桜	H31 学科名変更
足利	R4 統合(足利・足利女子)、共学化、単位制
足利工業	R2 学科改編
足利清風	R3 情報処理科の募集停止
真岡北陵	H31 学科名変更
益子芳星	H31 コミュニティ・スクール ※特例対象校
茂木	H31 コミュニティ・スクール ※特例対象校
馬頭	H30 特例校、コミュニティ・スクール、単位制
黒羽	H31 コミュニティ・スクール R2 特例校、単位制
那須清峰	R2 学科改編、学科名変更
那須	H31 コミュニティ・スクール R2 特例校、単位制
黒磯南	R4 福祉系列の導入
矢板	H31 学科名変更

(2) 定時制・通信制高校の再編

宇都宮工業	R2 昼夜間二部制
鹿沼商工	R2 夕夜間定時制、学科転換
学悠館	H31 Ⅲ部商業科の募集停止
足利工業	H31 夕夜間定時制
真岡	H31 夕夜間定時制

〔資料2〕 中学校卒業(見込み)者数の変遷



〔資料3〕県立高校全日制の地区別募集学級数見込み（地区毎の生徒減少率によるR10、R17の試算）

※中卒見込者数は、R3及びR10は学校基本調査(R3.5.1現在)、R17は保育行政調査(R3.4.1現在)による

年度		R3			R10	R17
中卒見込者数		4,872			4,621	3,979
対R3比率		100.0%			94.8%	81.7%
	学級数	学科	備考			
1	宇都宮	7	普	男子	計 68 合計学級数 67程度 学級減数 (対R3比) ▲1	合計学級数 58程度 学級減数 (対R3比) ▲10
2	宇都宮東	4	普	中高		
3	宇都宮南	8	普			
4	宇都宮北	8	普			
5	宇都宮清陵	5	普			
6	宇都宮女子	7	普	女子		
7	(共)宇都宮中央女子	7	普家	女子		
8	宇都宮白楊	7	農工商	総専		
9	宇都宮工業	8	工	科技		
10	宇都宮商業	7	商			
平均学校規模		6.8			6.7	5.8

学科	備考
普通系学科	男子…男子校
普…普通科	女子…女子校
理…理数科	中高…中高一貫教育校
体…体育科	総専…総合選択制専門高校
総…総合学科	総選…総合選択制高校
	科技…科学技術高校
	総産…総合産業高校
	単…単位制高校

年度		R3			R10	R17		
中卒見込者数		2,317			1,942	1,485		
対R3比率		100.0%			83.8%	64.1%		
	学級数	学科	備考					
1	佐野	4	普	中高	計 35 合計学級数 31程度 学級減数 (対R3比) ▲4	合計学級数 26程度 学級減数 (対R3比) ▲9		
2	佐野東	5	普					
3	佐野松桜	6	工商家福	総専				
4	(統合)足利	4	普	男子				
5	足利南	4	総					
6	(統合)足利女子	4	普	女子				
7	足利工業	4	工					
8	足利清風	4	普商	総選				
平均学校規模		4.4					4.4	3.7
中卒見込者数		1,280					1,210	843
対R3比率		100.0%			94.5%	65.9%		
	学級数	学科	備考					
1	真岡	5	普	男子	計 27 合計学級数 24程度 学級減数 (対R3比) ▲3	合計学級数 15程度 学級減数 (対R3比) ▲12		
2	真岡女子	5	普	女子				
3	真岡北陵	5	農商福	総専				
4	真岡工業	4	工					
5	益子芳星	4	普					
6	茂木	4	総					
平均学校規模		4.5			4.0	2.5		
中卒見込者数		1,900			1,722	1,333		
対R3比率		100.0%			90.6%	70.2%		
	学級数	学科	備考					
1	大田原	5	普	男子	計 36 合計学級数 32程度 学級減数 (対R3比) ▲4	合計学級数 24程度 学級減数 (対R3比) ▲12		
2	大田原女子	5	普	女子				
3	(特)黒羽	3	普	単				
4	那須拓陽	6	普農家					
5	那須清峰	5	工商	総専				
6	(特)那須	3	普商	単				
7	黒磯	5	普					
8	黒磯南	4	総					
平均学校規模		4.5			4.0	3.0		
中卒見込者数		1,410			1,176	903		
対R3比率		100.0%			83.4%	64.0%		
	学級数	学科	備考					
1	矢板	5	農工商家福	総専	計 27 合計学級数 23程度 学級減数 (対R3比) ▲4	合計学級数 17程度 学級減数 (対R3比) ▲10		
2	矢板東	4	普	中高				
3	高根沢	5	普商	総選				
4	さくら清修	6	総					
5	烏山	4	普					
6	(特)馬頭	3	普水	単				
平均学校規模		4.5			3.8	2.8		

年度	R3	R10	R17
中卒見込者数	17,398	15,821	12,719
対R3比率	100.0%	90.9%	73.1%
学級数見込	288	260	205
学級減数(対R3)	—	▲28	▲83
平均学校規模	4.9	4.5	3.5
学科の割合	普通系69.0:職業系31.0		

*学科の割合は募集定員による

【資料4】 「県立高校の在り方検討会議」からの提言 概要 (R4.2.9)

- 1 これからの高校教育に求められる役割（スクール・ミッション）、育成すべき資質・能力について
 - これからの「予測困難な時代」をたくましく生きていくためには、問題の本質を把握して自ら問いを立てる力など「栃木県教育振興基本計画 2025」に記された力を着実に身に付けさせていくことが重要である。
 - 県教育委員会は、各県立高校が自校の特色をより一層打ち出し、中学生の主体的な学校選択に資するよう、地域の期待や実状、適正配置などを踏まえ、スクール・ミッションを再定義する必要がある。
 - 各県立高校においては、スクール・ミッションや社会で求められる役割を踏まえてスクール・ポリシーを定め、学校の特色化・魅力化とその実現に向けた学校運営に努めていくことが必要である。
- 2 学科の特色に応じた教育活動の充実について
 - 全日制普通科高校においては、個別最適な学びの推進に向けて、興味・関心や進路希望に応じて多様な科目から選択し、生徒が自らカリキュラムを編成できる高校を設置拡充していく必要がある。
 - 文部科学省において「普通教育を主とする学科」の設置が弾力化されたが、本県では、特色ある学科の新設よりも、普通科の中にコースなどを設置して柔軟に対応することが望ましい。
 - 全日制普通科高校においては、難関大学や医学部への進学を目指すコースや、国際社会や地域社会、情報、環境などについて学習するコース、また、探究学習や学び直しなどの学習に重点的に取り組むコースを設置することが考えられる。
 - 普通系学科と職業系専門学科の募集定員の割合は、引き続き、概ね7：3を維持することが望ましい。
 - 職業系専門学科については、農業や工業、商業、家庭などを1つの学校に複数併置して、各分野の基礎基本について幅広く学ぶとともに、学科横断的な取組を推進していくことが望まれる。
- 3 生徒の資質・能力を最大限に伸長する特色・魅力ある学びについて
 - 大学進学者の多い高校においては、進学重点校に指定するなどその役割を明確にするとともに中高一貫教育校への転換や単位制の導入などにより、学校の特色や魅力をこれまで以上に打ち出す必要がある。
 - 中高一貫教育校は大いに成果を上げているほか、生徒・保護者のニーズも高いため、生徒の通学圏を考慮しながら設置拡充することが望ましい。
 - 併設型中高一貫教育校は、高校段階の募集を停止して中等教育学校へ転換することが望まれる。
 - 単位制は、個別最適な学びを推進する上で非常に有効であることから、県内の配置バランスを考慮しながら、その導入を更に拡充していく必要がある。
 - 国際バカロレアは、グローバル人材の育成などの点で有効であり早期の導入が望まれるが、様々な課題もあることから、まずは利点と課題を精査するなど、研究を深めていく必要がある。
 - STEAM教育は、新しい時代に必要な教育であるが、県立高校への早急な一律の導入は課題もあることから、研究校を指定し成果と課題を検証しながら全校へと普及していくことが望ましい。
 - 学び直しができる高校については、早期に設置もしくは位置づけることが望ましい。
- 4 定時制・通信制課程における多様な学習ニーズへの対応について
 - 全日制併置の夜間定時制においては、入学者数が少ない状況であることから、統合も含め、夜間部を昼間部に転換するなど、時代の変化や社会のニーズに合わせて改編を進めていく必要がある。
 - フレックス・ハイスクールは県央県北にも設置拡充し県内全域で通学できるようにすることが望ましい。
 - 通信制高校は、生徒の通学に配慮して県北地域などにも本校や協力校・サポート校を設置することが望まれる。また、学び直しやICT機器を活用した学びなど魅力的な教育活動を展開する必要がある。
- 5 高校教育に係る制度や整備等の在り方について
 - 特色選抜は今後も継続していくことが望ましいが、出願の資格要件や選抜方法については十分に検討する必要がある。
 - 施設整備については、魅力ある学校づくりを推進するため、県立高校の統合や学科の集約化などによって、先進的な施設設備を有する拠点となる高校を県内にバランス良く配置する必要がある。
- 6 高校再編に係る基本的な考え方と学校・学科等の適正な配置について
 - 全日制高校は、これまで同様に1学級40人換算で1学年4～8学級を適正規模とするとともに、統合等により大規模校を目指していくべきである。特に、大学への進学に重点的に取り組む高校や産業教育の中核を担う高校では、1学年6学級以上の学校規模が望ましい。
 - 職業系専門学科は、産業構造の多様化を踏まえ、集約して大規模な総合選択制専門高校や総合産業高校に再編するとともに、産業教育の拠点校として施設設備を整える必要がある。
 - 適正規模未滿で維持する特例校については、その考え方は今後も継続すべきであるが、周辺地域の少子化の進行等を踏まえれば、将来的な統合もやむを得ない。特に1学年1学級の高校は生徒の教育環境として望ましくないことから、今後も現行の特例校の条件を踏襲すべきである。